

◎ 評価対象分野・施策の方針

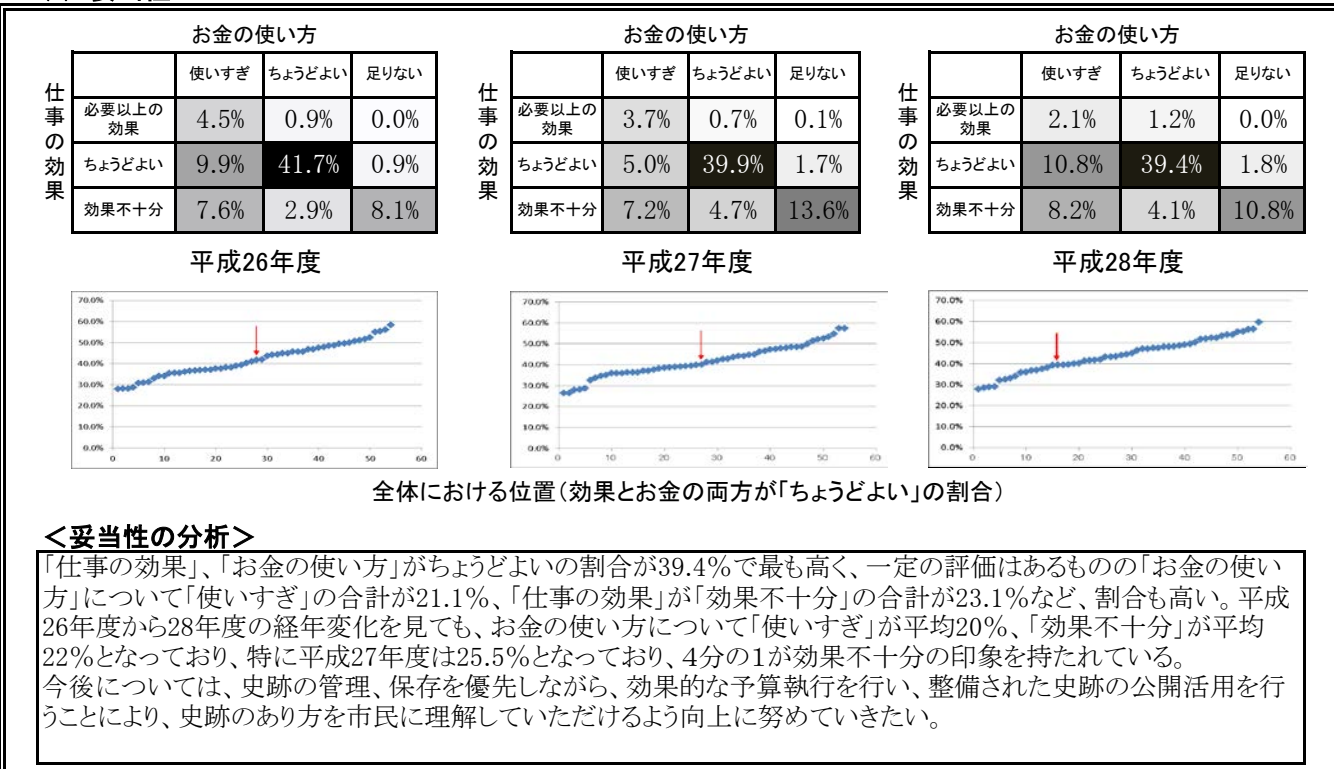
総合計画上の位置付け	分野	歴史環境	施策の方針	史跡の指定、保存・管理、整備及び活用
------------	----	------	-------	--------------------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	17.1%	平成27年度	16.3%	平成28年度	16.3%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	22.7%	49.7%	4.4%	23.1%	100.0%
平成27年度	25.8%	43.6%	7.2%	23.5%	100.0%
平成26年度	19.7%	49.5%	8.0%	22.8%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

- ①平成28年度の史跡買収予定地に関して、管財課と連携しながら、なるべく早く購入手続きを行っていく(文財-02)
- ②西瓜ヶ谷やぐら群について、平成27年度に実施した調査結果をもとに歴史的価値の評価を行い、国の史跡指定も視野に入れ、関係各機関と調整していく(文財-03)。
- ③史跡永福寺跡、北条氏常盤亭跡の整備を着実に進めるとともに、今後の史跡整備の計画についての検討を行う(文財-04)。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
文財-02	史跡買収事業	5,300	82,480	9,187	90,289	0.5	1.0	b	B
文財-03	史跡調査・整備事業	50	166	3,937	4,071	0.5	0.5	d	B
文財-04	史跡環境整備事業	192,400	165,687	219,610	193,019	3.5	3.5	b	B

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ① 史跡鶴岡八幡宮境内の土地を買収した(文財-02)。
- ② 全国史跡整備市町村協議会等へ参加した(文財-03)。
- ③ 西瓜ヶ谷やぐら群の発掘調査報告書を作成した(文財-03)。
- ④ 史跡永福寺跡苑池復元整備工事や北条氏常盤亭跡防災工事を円滑に進め、遺跡調査の成果を報告にまとめた(文財-03)。
- ⑤ 史跡大町釈迦堂口遺跡の崩落対策調査、史跡和賀江嶋の現況把握調査を実施した(文財-04)。
- ⑥ 公有地化した史跡の維持管理を行った(文財-04)。

【実施できなかった事業とその理由等】

- ① 史跡の状況が多様であるため、検討に時間を要し、買収の基本方針の策定には至らなかった。(文財-02)。
- ② 西瓜ヶ谷やぐら群の国指定史跡指定に向け、発掘調査を実施し報告書をまとめたが、国・県からさらなる調査研究を求められており、指定には至っていない(文財-03)。
- ③ 玉縄城址は埋蔵文化財包蔵地であるが、地域住民から保全の要望があり、保護を図るため新たに史跡指定を目指していくこととなった。(文財-03)。
- ④ 整備工事を円滑に進めるため、発注方法を変更する必要があるが、進行中の整備工事の実施を最優先としたため具体的な検討に至らなかった(文財-04)。
- ⑤ 史跡永福寺跡の大規模整備の終了に伴い、今後円滑な保存管理を継続していくため、指定管理者制度の導入も視野に入れた管理体制を整備する必要があるが、全面公開後の状況を把握しながら、引き続き検討することとした(文財-04)。

(4) 平成28年度の実績の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	☐ 適切	☒ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	☐ 適切	☒ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

史跡永福寺跡苑池復元整備を行っていたところ、2月下旬に当初想定を著しく上回る湧水により工事が難航し、年度内に整備が終わらなかった(文財-04)。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ・公有地化した史跡は積極的な公開、活用が必要であるが、整備及び維持管理には継続的な経費が必要となるため、有効な維持管理方法を検討し実施すること及び市独自財源に頼らない予算の確保が重要となってくる(文財-02)。
- ・本施策の方針では、市民意識調査において「ちょうどよい」という評価が多かったが、今後の進め方については「お金の使いすぎ」で、「効果不十分」と認識する人の割合が増えている。この評価を真摯に受け止め、今後も事業の必要性を理解していただけるよう、市民に鎌倉の歴史や文化の魅力を周知していくとともに、税金に依存しない自主財源の確保や効率的な事業実施に向け、努力していく必要がある。
- ・史跡永福寺跡の円滑な管理・運営を行っていくため、指定管理者制度を含めた管理体制を整備するとともに、今後の公開活用方針及び整備計画に位置づけたものの未着手となっている事項について、有識者会議で実施の可否も含めた検討を進める。
- ・今後の史跡の整備、管理の方向性を検討するための体制整備を図る必要がある(文財-04)。
- ・西瓜ヶ谷やぐら群については、国史跡指定に向けて、引き続き国と協議を行い、必要な資料を整えていく必要がある(文財-03)。

4 平成29年度の目標

- ① 計画どおりに史跡買収を進めるとともに、今後の計画的買収に備え、買収の基本方針を定める。
- ② 史跡永福寺跡の適切な管理運営及び公開活用に向けた体制を整備する。
- ③ 市が管理する史跡の整備及び管理等に関し検討を行うため、有識者による組織を整備する。
- ④ 大町釈迦堂口遺跡のトンネル部分の安全確保に向けた整備にかかる設計業務等を着実に実施する。
- ⑤ 西瓜ヶ谷やぐら群他の史跡指定を目指している案件について、引き続き国・県との協議を行うとともに必要な調査研究を進める。
- ⑥ 鎌倉の歴史や文化の魅力を周知するための各種事業(公開宣伝事業)を積極的に展開する。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	文財-02	事業名	史跡買取事業									
指標の内容	国指定史跡の公有地化件数						単位	件	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由		年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	29年度以降の目標値を、重点事業の計画と合わせた。			
買取要望がある中で、確実に要望に対応していくため		目標値		1.0	1.0	3.0	2.0	2.0				
		実績値		1.0	1.0							
		達成率		100.0%	100.0%							

整理番号	文財-04	事業名	史跡環境整備事業									
指標の内容	整備及び維持管理を実施した史跡数						単位	箇所	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由		年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
史跡の整備及び適切な維持管理を行うことで、文化財の価値を周知するとともに、近隣住民や来訪者の満足度上昇に寄与するため		目標値	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0				
		実績値	9.0	8.0	10.0							
		達成率	90.0%	80.0%	100.0%							

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- 「もっと力を入れるべき」という意見が増えてきているが、財源の多くを国からの補助金に頼っている状況で、内部の財源からどのように捻出するかが問題である。
- 市民への周知及び財源の確保については鎌倉市では永続的に続くであろう課題だと思うので、難しい課題だと思うがクリアすることが求められる。
- 史跡買取予定地に関して、管財課と連携しながら、なるべく早く購入手続きを行うことが求められる。一方で、予算が限られた中、指定をどんどん増やしていけるのか、長期的視点に立った対応策の検討も求められる。



指摘への対応、コメント等

- 優先順位を検討しながら効果的な事業執行を今後も行っていくが、ふるさと寄附金の活用など財源確保にも努めていく。
- 市民に史跡の価値や魅力及びその整備の必要性などについて周知を図るとともに公開活用を進める。また、県補助金等の上限枠での交付を引き続き要望するなど、補助金等の確保に努めていく。
- 史跡の公有地化を図り、整備及び維持管理を進めていくには継続的に多大な経費が必要となることから、経費の節減に有効な維持管理方法や市単独の予算に頼らない財源の確保等について検討していくとともに、市民の理解が得られるような方法を検討する。

提言

- 史跡の整備及び保存・活用は「古都鎌倉」にとり、必要となる施策であり、今後も着実に進めていく必要がある。
- 新たな財源の確保については、観光との連携など、他の分野と協力しての推進を視野に入れてほしい。また、買取した史跡等について、有効に活用することにより収入につなげ、更なる事業の促進を図る方法についても検討すべきである。具体的な取組(見に来てくれた人が直接負担できるしくみ、他都市や他分野での取組、資産活用した財源の確保など)を検討するとともに、今後もっと市民と協働するなどして展開していくことも検討すべきである。
- 公有地化件数の目標を年間1件としているが、資産価値はそれぞれ違うため、買収の要望が全体でどれくらいあるのかを明確にし、年間予算を考慮して中長期の買収計画を策定すべきである。
- 市民は何が史跡なのか分かっておらず、この点に対する工夫も期待する。



提言に関するコメント等(総論)

- 史跡整備の方向性等を見定めるため、有識者の委員会設置について検討を行う。当面はアドバイザー会議を開催し、今後について助言を得ることを予定している。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・歴史的都市として必要な事業である。史跡の整備及び保存・活用は「古都鎌倉」にとって、必要となる施策であり、今後とも着実に進めていく必要がある。
- ・市民意識調査などをふまえながら今後の方向性を示している。
- ・様々な調査を行い結果を報告し、その結果の分析を行うとともに課題、問題についても把握している。
- ・評価結果や市民意識、委員会からの意見等も考慮し、今後の方向性などを含め、具体的な指針を示し、それに向かった取組を行っている。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	1	↘	0	→		→
効果	○	2	△	0	—		—

《課題》

- ・史跡買収事業は優先順位を決め計画的に行っていく必要がある。
- ・遺跡調査の成果の報告は、興味を引く公開・活用してほしい。市民は「お金の使い過ぎ」に懸念を示している。「税金に依存しない自主財源の確保」が重要な課題ではないか。
- ・平成28年度取組については、今後の目標に対する準備段階という印象がある。以降の方向性についての考え方は良いと思うのだが、具体性が見えてこない。
- ・全国史跡整備市町村協議会等へ参加は何を目的とし、参加した結果何が得られたのか等について、明記していただきたい。

《提言》

- ・発掘順ではなく様々な観点から史跡にかかる費用を割り当てていく中、史跡は増える一方であるから、その保存、整備にかかる費用の捻出、財源の確保が毎年の課題になってくるのは当然である。大きな課題が明白な分、同じところで議論を繰り返さず、違う観点からの打開策がないか、検討していただきたい。
- ・少子化・高齢化が進む将来に向け、自主財源対策や減ることのない史跡数に対する基本的な対応について「次期基本計画」策定時に議論してほしい。
- ・毎年史跡の買収を行っているが、史跡は増加し、減少することはない。管理計画を立てるとともに、市民への周知を図ること、市民が見に行ってみようという思いにさせることが大事である。
- ・各史跡整備については、保存は大事だがその後の活用検討も行ったうえで検討してほしい。お金がかかるばかりでは、市の負担感が大きい。
- ・鎌倉の歴史や文化の魅力を周知するための各種事業（公開宣伝事業）については、広報等の他の部局との連携や市民との協業を図りながら進めるべき。

《質問》

- ・有識者会議のメンバーについてはステークホルダーに偏らず選任されているか？